鈴木三重吉（すずきみえきち）　小説家、児童文学者。明治十五年九月二十九日広島県生れ、昭和十一年八月二十七日歿（一八八二―一九三六）。筆名三重吉、四宮健、村山逞雄、松江きみ子、鈴木映山等。明治四十一年東京帝國大学文科大学英文科卒。在学中の二十九年、師夏目漱石の推薦で雑誌『ホトトギス』に「千鳥」を発表、出世作となる。のち児童文学に転じ、大正七年『赤い鳥』を創刊主宰、斯界の発展に貢献多大。『鈴木三重吉全集』全八巻（安藤龍成・森田草平・小宮豐隆・坪田譲治・小山東一編、昭和十二年二月―十一月）、二十四日岩波書店）刊。

著譯書『千代紙』（明治四十年四月一日春陽堂）、『おとぎ清さん』（明治四十五年八月十八日春陽堂）、『小鳥の巣』（大正元年十一月八日春陽堂）、『桑の實』（大正二年一月一日春陽堂）、『赤蜻蛉』（大正二年二月五日岡村盛花堂「文藝叢書」）、『留針』（大正二年五月十五日春陽堂）、『珊瑚樹』（大正二年九月二十二日植竹書院）、『三重吉全作集』（第一編『瓦』大正四年一月十八日、第二編『赤い鳥』四月八日、第三編『小猫』五月十八日、第四編『女』七月十八日、第五編『千鳥』八月二十八日、第六編『霧の雨』十月十五日、第七編『黒血』十一月二十五日、第九編『桑の實』五年一月十日、第十編『鄰』二月二十日、第十一編『八の馬鹿』四月十日、第十二編『小鳥の巣・上巻』五月十二日、第十三編『小鳥の巣・下巻』七月四日春陽堂發賣）、ゴーリキー（イ）作『懺悔』（譯、大正四年十月二十五日博文館「近世世界文藝叢書」）、北原白秋作詩・成田爲三作曲『「赤い鳥」童謡・第壹集』（編、大正八年十月十日赤い鳥社）、『小學童話讀本』（合著

・菊池寛編、第五學年上巻・大正十四年九月十九日、第二學年・十月〜二十〜二日興文社）、『アンデルセン童話集』（譯、昭和二年七月五日ダルス「日本兒童文庫」）、童話集『少年王』（編、昭和四年十一月〜二十八日春陽堂）、『日本建國物語』（昭和五年八月十四日ダルス「日本兒童文庫」）、『アンデルセン童話集』（昭和七年十月十五日春陽堂「少年文庫」）、『かなりや物語―世界童話集』（昭和七年十月十五日春陽堂「少年文庫」）、『星の女―世界童話集』（昭和七年十月十五日春陽堂「少年文庫」）、『千鳥池四篇』（昭和十年十一月十五日岩波書店「岩波文庫」）、『逐万讀本』（昭和十年十一月三日中央公論社）、『桑の實』（昭和十一年一月十日岩波書店「岩波文庫」）、『小鳥の巣』（昭和十四年八月三日岩波書店「岩波文庫」）、『逐万先生』（坪田譲治編、昭和十四年八月十八日春陽堂書店）、『少女科學・理科學篇』（中谷宇吉郎共編、昭和十五年一月一日富山房）、『鈴木三重吉童話全集・ニーぽっぽのお手帳（そのほか）』（小山東一解説、昭和十五年十一月十二日富山房）、エクトール・マアロオ原作『家なき兒・後編』（昭和十八年九月十二日童話春秋社）、『白い鳥』（昭和十八年八月二十五日新潮社「日本童話名作選集」）、『古事記物語』（鈴木理吉補訂、昭和二十年八月十日養德社「養德叢書」）、『ばらの笛』（昭和二十一年二月十五日公文館「少年少女文庫」）、名作物語『かぐや姫』（昭和二十一年五月一日光文社）、『日本をーペリー艦隊來航記』（昭和二十三年八月二十七日桐書房「少年少女歴史物語」）、『逐万讀本』（昭和二十三年十一月二十日養德社）、『桑の實』（昭和二十四年十二月五日新潮社「新潮文庫」）、『千鳥』（昭

和二十五年二月二十八日新潮社「新潮文庫」）、童話集『湖水の鐘・金のへび他十二篇』（昭和二十七年七月二十五日岩波書店「岩波文庫」）、『王朝記物語』（昭和二十九年一月二十一日生活百科刊行会）、『桑の實』（昭和二十九年七月二十日角川書店「角川文庫」）、『銀の泉』（昭和二十年五月二十日四季社「みみずく新書」）、『千鳥』（昭和二十年十一月十五日河出書房「河出文庫」）等。

文獻、小宮豐隆著『漱石寅彦と三重吉』（昭和十七年一月二十五日岩波書店。再刊。二十四年一月二十五日長野。明日香書房、二十七年一月十五日角川書店「角川文庫」）、津田青楓著『寅彦と三重吉』（昭和二十二年十月十五日萬葉出版社）、桑原三郎著『鈴木三重吉の童話』（昭和二十五年三月二十日桑原三郎刊）、鈴木三重吉示人爲の会編『鈴木三重吉への招待』（昭和五十七年九月二十九日教育出版センター）等。